

令和元年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立美保関中学校)

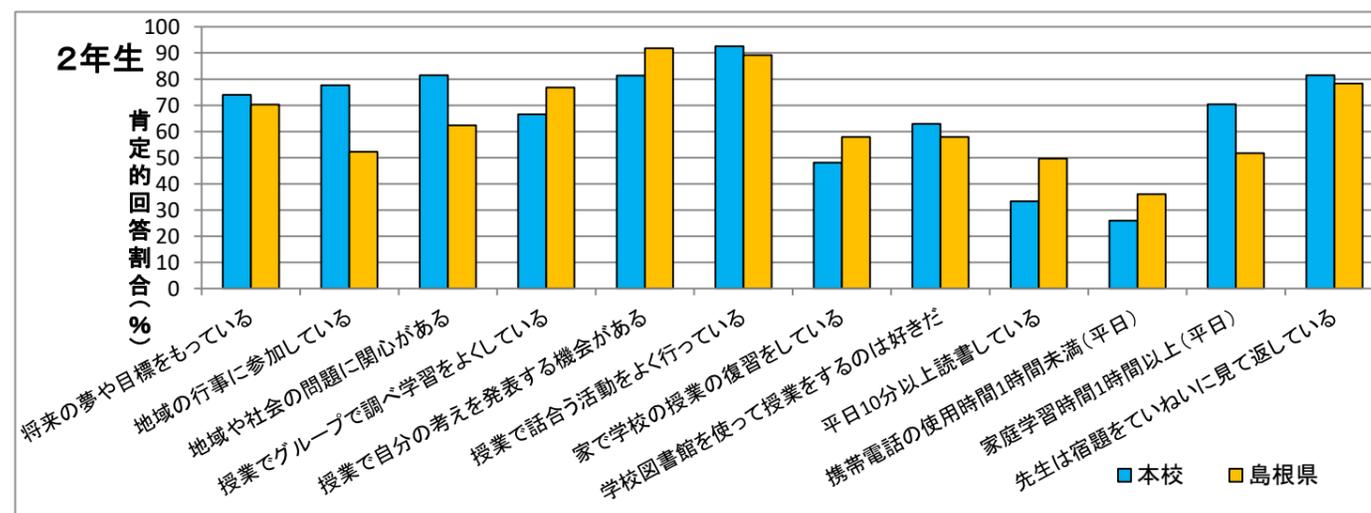
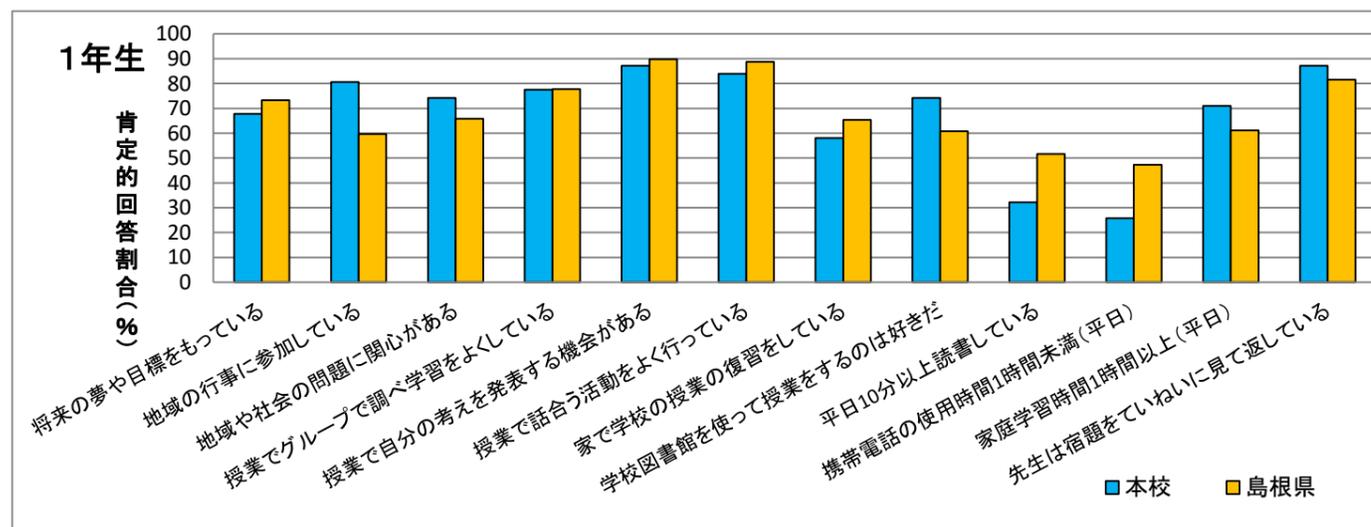
(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
1年	国語	○文学的文章の心情の読み取りが県平均を上回っている。 ●すべてのカテゴリーにおいて県平均を下回っており、問を読みこなす力に弱さがある。 ●自分の考えをどうまとめて良いかわからない生徒が多数である。	・正確に読み取る力を付けるために、日頃の読書指導を改善する。 ・教材に関連する様々な文章を授業でできる限りたくさん一緒に読み、語彙力を高めたり、知識を増やしたりする。 ・分かったことを短い文にまとめる練習をこまめに行う。
	数学	○正負、文字式の計算はよくできていた。 ●計算する以外の領域、観点において県平均を下回った。特に数量を式で表す領域が低かった。	・家庭学習において、意欲的に繰り返し学習できるよう意図的に課題を設定し、学習できるように努める。 ・グループでの活動を今以上に取り入れ、学びあう場面を増やしていく。
	英語	○読む・書く・聞くの3技能は比較的バランス良く力がついている。 ○知識と理解の力がついている。 ●自分の考え等を英文で書く力が低い。 ●英文を読んで内容を理解する力が低い。	・表現活動をコンスタントに取り入れる。 ・まとまった英文を読む時間を作り、英文に慣れさせる。 ・音読に力を入れる。
2年	国語	○文学の読解は昨年に続き、県平均を上回った。 ○伝統的な言語文化と国語の特質の項目で、県平均に並んだ。 ●話す・聞く力は県平均を10ポイント以上下回っている。 ●記述する力が県平均を5ポイント下回っている。	・継続的に、文法や語彙指導などを行い、国語に関する苦手意識を軽減する。 ・様々な資料から必要な情報をつかむ学習を取り入れる。 ・授業で、自分の意見や聞き取ったことを文章にまとめる学習をできる限り取る。
	数学	○計算の反復練習を行ったことで、基本的な計算の正答率は県平均より少し高くなった。 ○数と式、図形、関数の領域で県平均を上回った。 ●見方や考え方の観点で県平均より少し低めだった。 ●連立方程式の利用など文章題が県平均を下回った。	・家庭学習で、計算だけでなく、苦手分野が補充できるような課題を引き続き取り入れていく。 ・意味理解を大切に、自分の考えを適切な言葉を使って説明できるような課題、機会を設定する。 ・グループでの活動で、自分の考えを説明したり発表したりする機会を設定する。
	英語	○自分の考えや気持ちなどを正しく書く力は比較的ついている。 ●特に英語を聞いて理解する力が低い。 ●長文読解に対して苦手意識を持っている。	・リスニングトレーニングの時間を設ける。 ・まとまった英文を読む時間を作るとともに、徐々に語数を増やす。

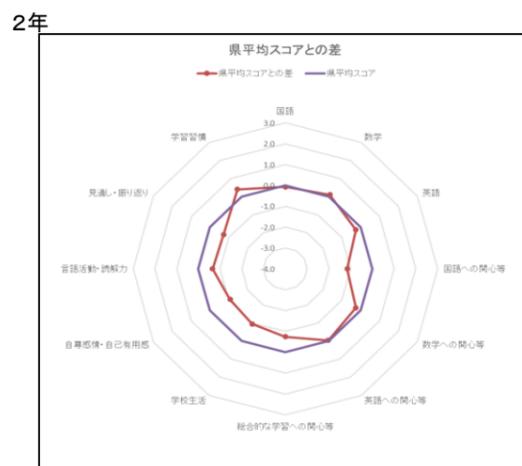
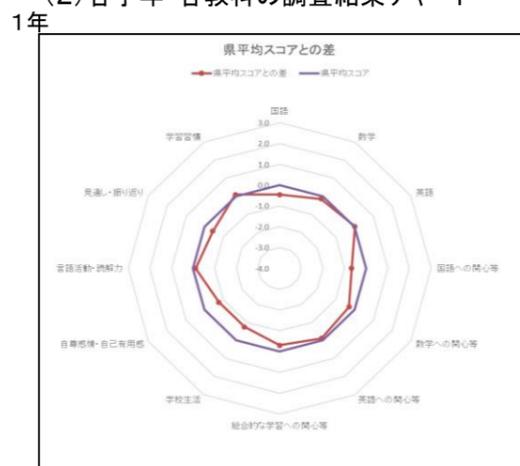
(3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
1年	授業改善に関わる事項	○学校図書館を使って授業をすることに意欲的な生徒が多い。 ○地域の行事に参加している生徒が多く、地域や社会の問題に関心を持っている。 ●読書時間が短く、学習を支える知識を増やしたり思考力を伸ばしたりする機会が少ない。	・各教科、領域でもっと学校図書館を利用した学習を取り入れる。 ・グループで調べ学習をしたり、話し合う活動をしたりして、自分の考えを友だちに伝える機会を増やす。
	家庭学習に関わる事項	○家で学校の授業の復習をしている生徒が、小学校の時に比べてかなり増えた。 ●携帯電話の使用時間が長くなる生徒が多い。	・メディアについて、講演だけでなく、学活・道徳・教科において積極的に行う。 ・自学ノートの家庭での取り組み方を、生徒会や生徒同士で話題にあげ、学年全体での取り組み方法を考えている。
2年	授業改善に関わる事項	○授業で話し合い活動をよく行っているという項目が昨年よりも2倍も高くなっている。これは、各教科担当の工夫と、生徒自身が、まなボードを上手に活用し、自分の考えを伝えることができるようになったからだと考えられる。また、その効果もあり、学習に関する項目が全体的に肯定回答が向上している。	・学習規律については、引き続き声がけをしなが、目的意識を向上させ、学ぶ姿勢を意識づけする。 ・意図的に自分の考えを発表できるような場面を設定することを、引き続き取り組む。
	家庭学習に関わる事項	○「家で復習をする」生徒の割合と「1時間以上家庭学習をする」生徒の割合が昨年よりも向上している。家庭学習に関しては、県平均よりも高い結果となった。 ●読書の時間が昨年に引き続き県平均よりも低い。	・家庭に協力を依頼し、自学ノートなど提出物にきちんと取り組み、提出できるように引き続き、励ましてもらったりする。 ・家庭学習ができるような手立てとして、受験対策問題集の取り組みを学年として始めている。 ・メディアに接触する時間を自覚させ、その分が読書や家庭学習につながるよう、テスト計画表などを利用し、意識づけを促していく。

(4) 生活・学習に関する意識調査の結果



(2) 各学年・各教科の調査結果チャート



(参考) 平均正答率

		国語	数学	英語
1年生	本校	60	45	62
	松江市	69	52	64
	島根県	68	49	62

受検者数
1年生 31人

(参考) 平均正答率

		国語	数学	英語
2年生	本校	76	40	48
	松江市	77	40	54
	島根県	77	38	53

受検者数
2年生 27人

各スコアの範囲は-4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。